

「家がいいね」 第72号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2010. 5. 14

豊かな森は縄文以前からの風景

5月2日の日曜日、皇學館大学の講堂で、映画「地球交響曲 ガイア シンフォニー 7番」試写会に参加する事ができました。「すべての生命が潔（いさぎよ）く健やかに生き続けるために」が、そのテーマです。3人の賢者の生き方を追いつつ、大自然が人の魂のゆりかごであると「霊性の原風景」が展開します。神宮の森と田が、神（あるいは天）と人をつなぐ場であることを丹念にカメラが追います。映画を見終え、外に出ると新緑が盛り上がる山が見え、太古から変わらぬ生命の営みが感じられました。



この翌日、思いがけず、試写会トークに出演のワイル博士と高野孝子さん、監督の龍村仁さん達の早朝参拝に同行できることになりました。自発的治癒力を根本に、統合医療として医学の枠を変えようとしている



博士と、身体感覚にゆだねる生き方を進める高野さんの、普段の姿と一緒に歩きながら感じる体験が出来ました。監督が70歳を超えてなお精力的に語られるのにも感銘しました。この映画は、この先に全国で自主上映活動されます。わが町でも、多くの人に見て、感じていただけたらと思います。大きな生命体の中に自分が位置していると気付かせるのが、この映画のねらいでしょう。



いずれは終わる私の命を世界にどう結ぶか、物言わぬ樹や花と共に考えてみたいものです。



在宅での胃瘻を考える

伊勢地区医師会の在宅医療委員会が主催して、NHKクローズアップ現代で、取り組みが取材された金沢市の医師、小川滋彦さんを講演にお呼びします。

「胃瘻の安全管理と地域連携」

平成22年5月23日（日） 14時

伊勢シティホテル

医師以外の、胃瘻関係者の方の参加も可能です。

（ここからは、私のつぶやき 140字）

人生80年の生き方のモデルは、「食べられなくなったら、栄養補給II胃瘻」ではないと思います。今これを考えずに、先送りすれば、人生90年、あるいは100年での苦い実を摘む事になります。しかし、現実に胃瘻に導入された人達の生活と、生きる力も支える社会でなければなりません。



足りないのは、コミュニケーション能力！

生と死を考える市民の会の、本年の講演は、町永俊雄アナに講師をお願いしました。



「つながる工夫、支える力」
テレビを通して考えた福祉社会
平成22年7月10日（土） 13時から
三重県総合文化センター フレンテみえにて
チラシと前売りチケット800円は当院で。

私たちの「いのち」の意味を考えよう

「終わりよければ」いせの会の市民講座のチラシが出来ました。ぜひ詳細をご参照ください。

8月1日（日） 13時から、神宮会館
「いのちの対話」 柏木哲夫・内藤いづみ
ハガキ申し込み制で500円です

前日夕から宿泊での研修（裸の体験など）が企画されています。このオプションも申し込み制です。



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
mail homecare@kr.tcp-ip.or.jp
<http://www.tcp-ip.or.jp/~takuro>